

研究テーマ

質問のスキルをアップさせるための質問訓練システムの開発
Development of the questioning system to improve the skill of the question

佐藤 寛大
Hiroki Sato

1 研究概要

1. つくりたいもの

質問のスキルをアップさせるための質問訓練システム。

2. 誰が使うか

会議などの議論参加者である。特に、会議での質疑応答の時間に本当に質問したいことがあるが恥ずかしくて質問することをためらっている議論参加者や、質問する内容が会議の内容と本当に合っているのが不安で質問することをためらっている議論参加者は多くいると思う。

また、生徒や学生である。特に、思春期である中高生は周りの目を気にする時期であり、他のみんなの前で授業でのわからないところを質問できる中高生は少ないと思う。

3. どこで使うか

主に会議室・教室である。また、質疑応答の時間や授業後の時間に質問することができようが、質問できる時間が終わったあとに質問内容や質問しようとしていた内容を振り返ることも質問のスキルをアップさせることに繋がると考えられるので、家などでも使えるようにする。

4. いつ使うか

会議前・授業前である。会議や授業の題材は、ほとんどがあらかじめ分かっていることが多い。なので、会議の場合だと議論内容をあらかじめ頭に入れておくと質問内容が思いつくことがある。また、授業の場合だと授業内容を予習しているときに質問内容が思いつくことがある。会議前・授業前の質問は会議中・授業中に解決されることもあると思うが、必ずしも質問すべてが解決できるとは限らない。

次に、会議中・授業中である。会議の発表を聴講しているときに、疑問に思ったことが質問になることが多い。会議の時間が長ければ長いほど疑問に思ったことを忘れてしまうこともある。なので、疑問が浮かんだ瞬間に使うことが一番良いと思う。また、授業中だと理解できないところが浮かび、そのままにしていると理解できないまま授業についていかなければなら

ず、結局理解できないままそのままだることが多い。会議中と同様に理解できないところが浮かんだ瞬間に使うことが一番良いと思う。

最後に、会議後・授業後である。質問もするだけで、そのままにしておくとの意味もないと思う。会議後・授業後に質問した内容を振り返れば、よりいっそう質問のスキルのアップに役立つと思う。

5. どのように使うか

会議・授業中の場合は、思いついた質問を Twitter のツイートのようにリアルタイムに投稿していく。他の議論参加者にもその投稿された質問がリアルタイムに閲覧することができ、その質問に対して共感したり、良い質問だと思うと Twitter のお気に入りボタンや Facebook のいいね！ボタンみたいなボタンを押してもらう。そして、投稿した本人に何人の人がボタンを押しているか分かるようにする。ボタンを押してくれた人が多ければ多いほど、投稿した本人が思いついた質問を効果的だと判断することができ、その質問に自信が付き、質疑応答中に質問を発表しやすくなると思う。会議・授業前に思いついた質問の中で会議・授業中に理解できなかった質問も同様に投稿して、議論参加者に評価してもらう。質問のスキルをアップさせるためにはやはり経験が必要不可欠だと思うので、Twitter や Facebook のようなシステムにすると、身近なもので扱いやすく経験を積む機会が増え、質問のスキルのアップに役立つと思う。

会議・授業が終わり、家などで自分の投稿した質問を見返し、議論参加者（発表者も含む）の評価が高い質問と低い質問の違いを見比べ、特に評価の低い質問はなぜこの質問は効果的ではないのかを判断できるように、効果的ではない質問の例がかいてあるページを設計し、システムが効果的ではない質問のどの例に当てはまるかを分別できるようにする。

会議中・授業中に質問訓練システムを使うときに、そのシステムについて熱中してしまうと会議や授業の内容の理解に支障を出してしまい、また、複雑な操作だとシステムをうまく使うことができずに、会議や授業に集中することができないので、単純な操作でシステムを使えることが望ましいと思う。

6. 何を材料としてつくるか

効果的な質問や効果的ではない質問などの質問のスキルについての文献のデータ・Twitter や Facebook のシステム

参考文献

memoQ) http://www.nii.ac.jp/graduate/thesis/pdf/200803/matsuoka_Dr_thesis.pdf
テストの花道) <http://www.nhk.or.jp/hanamichi/p/111212.html>

2 つくりたいもののイメージ図

1. 会議・授業中(会議・授業前)



Fig.1 イメージ図

2. システム



Fig.2 イメージ図

3 次の発表までにすること

1. 会議などでの発表者や授業中での先生への効果的な質問と効果的ではない質問の特徴を把握すること.
2. Twitter や Facebook の仕組みを把握すること.